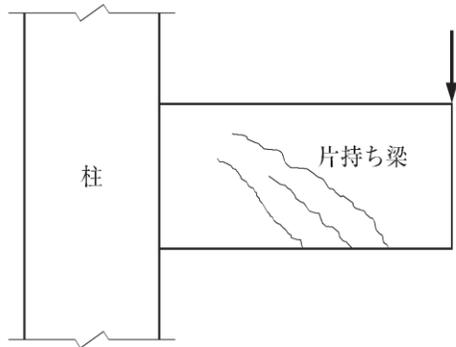


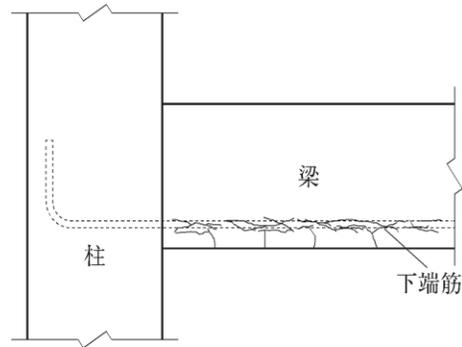
1. 階高 8 mの正方形断面柱の一辺の長さを、階高の  $1/12$  とした。 (平成25年)
2. 柱が座屈しないことを確認しなかったので、柱の小径を、構造耐力上主要な支点間の距離の  $1/10$  とした。 (平成24年)
3. 建築物の使用上の支障が起こらないことを確認しなかったので、梁のせいを、梁の有効長さの  $1/15$  とした。 (平成24年)
4. コンクリートの充填性や面外曲げに対する安定性等を考慮して、耐力壁の厚さを、壁板の内法高さの  $1/20$  である 150mm とした。 (平成24年)
5. 階高 4 mの耐力壁の厚さを、階高の  $1/40$  とした。 (平成25年)
6. 一辺が 4 mの正方形床スラブの厚さを、スパンの  $1/25$  とした。 (平成25年)
7. 建築物の使用上の支障が起こらないことを確認しなかったので、片持ち以外の床版の厚さを、床版の短辺方向の有効張り間長さの  $1/25$  である 200mm とした。 (平成24年)
8. 長さ 1.5mのはね出しスラブの厚さを、はね出し長さの  $1/8$  とした。 (平成25年)

・地上 4 階建て、階高 4 m、スパン 6 mの普通コンクリートを使用した鉄筋コンクリート造の建築物における部材寸法の設定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、特別な調査・研究によらないものとする。 (令和5年)

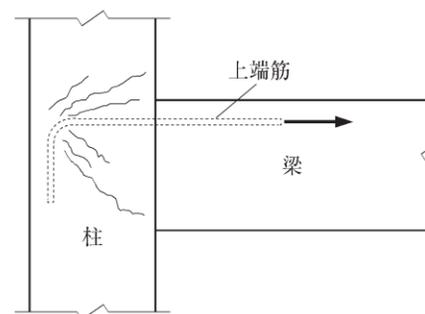
1. 耐力壁の厚さを、階高の  $1/30$  以上などを満たすように、150 mm とした。
2. 正方形断面柱の一辺の長さを、階高の  $1/10$  以上などを満たすように、600 mm とした。
3. 短辺 4 mの長方形床スラブの厚さを、スラブ短辺方向の内法長さの  $1/40$  以上などを満たすように、150 mm とした。
4. バルコニーに用いるはね出し長さ 2 mの片持ちスラブの支持端の厚さを、はね出し長さの  $1/15$  以上などを満たすように、150 mm とした。



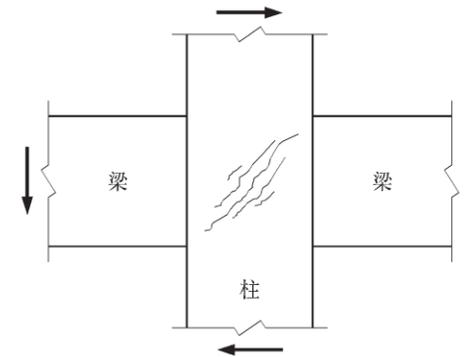
1. 矢印方向に荷重を受けた場合の、「片持ち梁のせん断ひび割れ」



2. 下端筋に沿って付着割裂した場合の、「梁のひび割れ」



3. 柱梁接合部内に定着された梁上端筋が矢印方向に引張力を受けた場合の、「柱梁接合部及び柱のひび割れ」



4. 矢印方向に荷重を受けた場合の、「柱梁接合部のひび割れ」

・ 鉄筋コンクリート造の建築物において、「躯体に発生したコンクリートのひび割れの状況を示す図とその原因の説明」として、最も不適当なものは、次のうちどれか。（平成29年）

1. 最上階の柱梁接合部が、矢印の方向に曲げモーメントを受けた場合のひび割れ。
2. 独立基礎フーチングのはね出し部分が、矢印の方向に地盤からの接地圧を受けた場合のひび割れ。
3. 周辺が梁で固定されたスラブが、鉛直荷重を受けた場合のスラブ上面のひび割れ。
4. 柱梁接合部のせん断耐力壁に、乾燥収縮が生じた場合のひび割れ。

